

## ぼかし肥利用の減農薬・有機栽培技術について

松沼農園 松沼憲治

昭和27年（1952年）私は学校を卒業し、親のもとで就農しました。当時は農家の長男は農家を継ぐのが当たり前でした。また、慢性的な食糧不足でしたので、つくりさえすれば売れ、前進栽培すれば高く売れた時代でした。私が学校で6年間学んだ農業化学の先生は「化学肥料は土を老化させる」が持論。私は恩師の教えを守り、土作りを怠らず、安全な農作物栽培に努めました。

その後日本農業は規模拡大、周年、省力化とともに化学肥料、化学農薬全盛時代にはいり、多くの地球資源を使い捨てにしました。自然は豊かな農産物や、多くの草木を育ててくれます。その自然の尊さを見失ってしまったのです。それではいけないと、私はそうしたことには一切顧みず、畑作は施設キュウリを中心に、他の畑は露地野菜（南瓜、キャベツ、ジャガイモ、トウモロコシ）をつくり、水田は輪作大系をとり、自前の資源を多く使いました。

今から40数年前に夏キュウリを不自然なビニールハウスの中で真冬（関東では2月最低-5~-7℃）に収穫量をピークにするには、多くの熱資材が必要でしたので、林や水田の落ち葉や稲ワラを利用し、微生物や微小生物の助けをかりて発酵熱を利用したのです。

今日では、電気も油も豊富にありますが、電気や重油は最低限の使用にして、化学肥料の代わりに自家製で安全確認済みの有機質肥料や、化学農薬の代わりに手作りの植物農薬を使い、独自の有機栽培を続けてきました。

それによって連作障害を回避し、安全な農産物の安定生産を実現でき、消費者の食の安全や健康需要に応えています。

親の代から行ってきた、竹やぶや林の落ち葉の中から採った土着の微生物を、米糠を利用して、独自の方法で増殖させ、これを種菌として（保存可）米糠と菜種粕、その他数種類の材料と混ぜ、水を加えて発酵させてつくった微生物の塊のようなものが「ぼかし肥」です。純度の高いぼかし肥は、肥料としてだけではなく土の団粒化と土の中の堆肥の養生との相乗効果もねらいです。土の中で行われている多くの微生物の営みや、見ることでできない現象を想像しながら土作りをしてきました。結果としてビニールハウス内の50年近い連作が可能となったのです。

病虫害防除は、化学肥料にあまり頼らず、黒砂糖、玄米酢、ドブロクをもとにした手作りの植物農薬や、糞酢、ニンニクなどを調合して作った害虫忌避剤を散布し、自然の摂理に従った農業をしてきました。

よい作物をつくるには省力至上主義や利益至上主義ではむりではないでしょうか。

安全、安心な農産物栽培などとは、話せば1分、書けば1行です。しかし、現実に方法を確立するには、話や本のように簡単ではありません。

私の栽培方法は、常識やぶりが多く、人々から理解してもらえず「変人」あつかいされます。しかし、研究開発費も時間も自分もちで、これをつらぬき通してきました。現在では、そのことが社会から見直されるようになり、私が行ってきたことが正しかったと確信を得ることができました。

「食は命なり、命は食なり」という言葉があります。その命の源である農業を、誇りを持って続けるつもりでおります。

最後に言いたいのは、野菜栽培、露地野菜、特に施設園芸栽培では連作障害が発生します。これを回避するには、努力が必要です。本を読んだり、話を聞いたりした知識、つまり学んだ知識も大切ですが、それよりも現場です。つまり農業では、田、畑、ビニールハウス内で経験で得た知識、それを体験知識と言います。体で覚えたものです。この知識が一番役に立つのです。パソコンですぐ結果をだすような、効力至上主義ではなく、もっと現場主義でないと、おなじ圃場（畑）に何十年も連作することは出来ないと思われま

## 経営概況 (H19年(2007年)現在)

### ○ 経営面積

- ビニールハウス 700坪(2400㎡) 43年以上栽培  
作目：キュウリ 促成、抑制 2期栽培
- 畑 露地野菜 150a  
作目：キャベツ中心 ジャガイモ トウモロコシ その他  
(春、秋、2期)
- 水田 33a H6年(1994年)～14年(2002年)まで アイガモ同時作 (年によってはキャベツ栽培、現在休耕)
- 水田 12a H6年(1994年)よりアイガモ同時作、H18年(2006年)まで (今年は鳥インフルエンザのために普通作)

### ○ 労働力

松沼憲治	74歳	農業労働	年間100日
松沼松江	71歳	農業労働	年間0日
松沼忠夫	42歳	農業労働	年間300日
松沼和恵	40歳	農業労働	年間300日

## 米糠・土着菌を使ったボカシ肥の作り方

### 元菌

細かくした <u>ハンペン</u> （土着菌）	1つかみ
ご飯	1つかみ
米糠	15kg
水（必ず井戸水）	約10リットル

### きゅうり用ボカシ肥

元菌	15kg
菜種粕	40kg
骨粉	20kg～40kg
くん炭	10kg
米糠	150kg～200kg
以上で	合計300kg
水（全重量の1/3）	100kg
赤土	40kg～50kg（水分が1/3含まれている）

### 注意事項：

※ ボカシ肥を作る場所の土をよく濡らしておく

※ 乾燥しないように上を覆うコモをよく濡らしておく

※ 1日1回必ず切り返す（空気を混ぜるため）

※ 温度は60℃を超えないこと

